

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成26年2月13日

【四半期会計期間】 第46期第3四半期
(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)

【会社名】 株式会社さくらケーシーエス

【英訳名】 SAKURA KCS Corporation

【代表者の役職氏名】 取締役社長 藤原邦晃

【本店の所在の場所】 神戸市中央区播磨町21番1

【電話番号】 078(391)6571(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 経営企画部長 友石敏也

【最寄りの連絡場所】 神戸市中央区播磨町21番1

【電話番号】 078(391)6571(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 経営企画部長 友石敏也

【縦覧に供する場所】 株式会社さくらケーシーエス東京本社
(東京都中央区日本橋室町四丁目5番1号)

株式会社さくらケーシーエス大阪支社
(大阪市淀川区宮原四丁目1番14号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第45期 第3四半期 連結累計期間	第46期 第3四半期 連結累計期間	第45期
会計期間		自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高	(百万円)	14,149	14,187	20,941
経常利益	(百万円)	121	41	569
四半期(当期)純利益又は 四半期純損失()	(百万円)	5	6	258
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	88	89	353
純資産額	(百万円)	13,690	14,087	14,132
総資産額	(百万円)	17,571	18,340	18,855
1株当たり四半期(当期) 純利益又は四半期純損失()	(円)	0.45	0.54	23.04
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	77.9	76.8	75.0

回次		第45期 第3四半期 連結会計期間	第46期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日
1株当たり四半期純損失()	(円)	14.15	4.10

- (注) 1 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、新株予約権付社債等潜在株式がなく、また、第45期第3四半期連結累計期間は、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。なお、当社は平成25年4月8日付で、株式会社シィ・エイ・ティの株式を取得し連結子会社としております。

これにより、平成25年12月31日現在では当社グループは当社及び親会社2社、子会社2社により構成されることとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、新たに締結した経営上の重要な契約等は、次のとおりであります。

(連結子会社間の合併契約)

当社は、平成25年12月24日開催の取締役会において、ともに当社100%出資の連結子会社であるケーシーエスデータ株式会社と株式会社シー・エイ・ティを合併することを決議し、両社は平成25年12月24日に合併契約を締結いたしました。

合併の概要は、次のとおりであります。

(1) 合併の目的

当社は、BPO事業の強化・拡充を目的として、特にスキャニング・データ入力・CAD・画像処理等のさまざまな手法を組み合わせた総合的な電子化（文書のデジタル化）に強みを持つ株式会社シー・エイ・ティを、平成25年4月に100%子会社化いたしました。

ケーシーエスデータ株式会社と同社は、「情報サービス（BPO）事業」と「労働者派遣事業」というほぼ相似形の事業構造であることから、両社を合併することにより、事業運営体制の強化と経営の効率化を図るものであります。

(2) 合併の方法

ケーシーエスデータ株式会社を存続会社とし、株式会社シー・エイ・ティを消滅会社とする吸収合併であります。

なお、存続会社であるケーシーエスデータ株式会社は、効力発生日をもって株式会社KCSソリューションズに商号を変更する予定であります。

(3) 合併期日（効力発生日）

平成26年3月1日

(4) 合併に際して発行する株式及び割当

当社100%出資の子会社同士の合併であるため、本合併による新株式の発行及び合併対価の交付はありません。

(5) 引継資産・負債の状況

ケーシーエスデータ株式会社は、株式会社シー・エイ・ティの資産、負債及びこれらに付随する一切の権利義務を引継ぐものとします。

(6) 吸収合併存続会社となる会社の概要

資本金 10百万円

事業内容 情報サービス事業（データ入力、文書デジタル化など）、労働者派遣事業

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社及び連結子会社（以下、「当企業集団」という。）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当企業集団の当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、一般法人向けのシステム構築業務及びシステム機器販売並びに自治体向けシステム機器販売が減少しましたが、株式会社シィ・エイ・ティの子会社化やアウトソーシング業務の増加によりシステム運用管理業務が増加したことに加え、金融機関向け取引が堅調に推移したことから、売上高は14,187百万円と前年同四半期比37百万円（0.3%）の微増となりました。

損益面につきましては、研究開発・人材育成費用の増加に加えて、競争激化により売上総利益率が低下した影響により、営業損失は40百万円と前年同四半期比98百万円の減益、経常利益も41百万円と前年同四半期比80百万円（66.1%）の減益となりました。一方、四半期純利益は、投資有価証券売却益があったことなどから、6百万円と前年同四半期比11百万円の増益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

金融関連部門

三井住友フィナンシャルグループを含む金融機関向けシステム構築業務及びシステム機器販売が堅調に推移したことを主因として、売上高は4,376百万円と前年同四半期比301百万円（7.4%）の増収となりました。

公共関連部門

大手ベンダー向けシステム構築業務が増加する一方で、自治体向けのシステム機器販売が大きく減少したことから、売上高は3,141百万円と前年同四半期比146百万円（4.4%）の減収となりました。

産業関連部門

平成25年4月に子会社化した株式会社シィ・エイ・ティの売上高計上によりシステム運用管理業務が増加しましたが、システム構築業務及びシステム機器販売が減少した影響が大きく、売上高は6,668百万円と前年同四半期比117百万円（1.7%）の減収となりました。

当企業集団の事業につきましては、システムの納入が第2四半期（7～9月）及び第4四半期（1～3月）に集中する傾向があり、売上高が第1四半期（4～6月）及び第3四半期（10～12月）において減少し、第2四半期（7～9月）及び第4四半期（1～3月）に増加するパターンとなり、四半期毎・半期毎の経営成績が変動いたします。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において当企業集団の事業上及び財務上の対処すべき課題について、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、11百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	11,200,000	11,200,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は100株であります。
計	11,200,000	11,200,000	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年12月31日		11,200,000		2,054		2,228

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,198,900	111,989	-
単元未満株式	普通株式 600	-	-
発行済株式総数	11,200,000	-	-
総株主の議決権	-	111,989	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式4株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社さくらケーシーエス	神戸市中央区播磨町21番1	500	-	500	0.00
計	-	500	-	500	0.00

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 退任役員

役職名	氏名	退任年月日
取締役	岸川和久	平成25年10月10日

(2) 役職の異動

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
取締役	取締役(代表取締役)兼 社長執行役員	岸川和久	平成25年10月1日
取締役(代表取締役)兼 社長執行役員	取締役(代表取締役)兼 副社長執行役員 産業ソリューション事業部長、 コンサルティング部担当	藤原邦晃	平成25年10月1日

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,008	4,719
受取手形及び売掛金	4,835	3,274
有価証券	3,300	2,300
商品	177	340
仕掛品	207	954
貯蔵品	15	41
その他	1,199	853
貸倒引当金	7	6
流動資産合計	12,737	12,475
固定資産		
有形固定資産	3,472	3,472
無形固定資産	448	486
投資その他の資産		
投資有価証券	1,422	1,199
その他	821	741
貸倒引当金	47	34
投資その他の資産合計	2,196	1,906
固定資産合計	6,117	5,865
資産合計	18,855	18,340
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,505	1,257
未払法人税等	66	25
賞与引当金	789	368
受注損失引当金	6	-
その他	961	1,057
流動負債合計	3,329	2,708
固定負債		
退職給付引当金	356	426
役員退職慰労引当金	95	101
その他	941	1,017
固定負債合計	1,393	1,545
負債合計	4,723	4,253

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,054	2,054
資本剰余金	2,228	2,228
利益剰余金	9,660	9,532
自己株式	0	0
株主資本合計	13,943	13,815
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	188	271
その他の包括利益累計額合計	188	271
純資産合計	14,132	14,087
負債純資産合計	18,855	18,340

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	14,149	14,187
売上原価	11,505	11,561
売上総利益	2,643	2,625
販売費及び一般管理費	2,586	2,666
営業利益又は営業損失()	57	40
営業外収益		
受取利息	4	3
受取配当金	28	22
不動産賃貸料	47	48
保険配当金	9	19
助成金収入	10	19
雑収入	20	11
営業外収益合計	121	125
営業外費用		
支払利息	22	19
不動産賃貸費用	26	24
雑損失	8	0
営業外費用合計	57	44
経常利益	121	41
特別利益		
投資有価証券売却益	-	43
特別利益合計	-	43
特別損失		
会員権評価損	¹ 45	-
特別退職金	71	52
特別損失合計	116	52
税金等調整前四半期純利益	4	32
法人税等	9	25
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	5	6
四半期純利益又は四半期純損失()	5	6

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	5	6
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	82	83
その他の包括利益合計	82	83
四半期包括利益	88	89
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	88	89

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間から株式会社シィ・エイ・ティの株式を取得したことにより、同社を連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

税金費用の計算

当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期連結損益計算書関係)

1 会員権評価損には、次の貸倒引当金繰入額が含まれております。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
貸倒引当金繰入額		40百万円

2 売上高の季節的変動

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

当企業集団の事業につきましては、システムの納入が第2四半期(7月~9月)及び第4四半期(1月~3月)に集中する傾向があり、売上高が第1四半期(4月~6月)及び第3四半期(10月~12月)において減少し、第2四半期(7月~9月)及び第4四半期(1月~3月)に増加するパターンとなり、四半期毎・半期毎の経営成績が変動します。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	503百万円	480百万円
のれんの償却額	- 百万円	17百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	67	6.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金
平成24年10月31日 取締役会	普通株式	67	6.00	平成24年9月30日	平成24年12月7日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	67	6.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金
平成25年10月29日 取締役会	普通株式	67	6.00	平成25年9月30日	平成25年12月6日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	金融関連 部門	公共関連 部門	産業関連 部門	計				
売上高								
外部顧客への売上高	4,075	3,288	6,785	14,149	-	14,149	-	14,149
セグメント間の内部売上 高又は振替高	1	23	523	547	-	547	547	-
計	4,077	3,311	7,308	14,697	-	14,697	547	14,149
セグメント利益	745	169	582	1,497	-	1,497	1,439	57

(注)1 セグメント利益の調整額 1,439百万円は、管理部門の費用のうち配賦の困難な費用等であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	金融関連 部門	公共関連 部門	産業関連 部門	計				
売上高								
外部顧客への売上高	4,376	3,141	6,668	14,187	-	14,187	-	14,187
セグメント間の内部売上 高又は振替高	8	11	474	494	-	494	494	-
計	4,385	3,153	7,142	14,682	-	14,682	494	14,187
セグメント利益又は 損失()	695	282	516	1,495	-	1,495	1,535	40

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額 1,535百万円は、管理部門の費用のうち配賦の困難な費用およびのれんの償却額等であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は 四半期純損失金額()	0.45円	0.54円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額()(百万円)	5	6
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は 四半期純損失金額()(百万円)	5	6
普通株式の期中平均株式数(株)	11,199,506	11,199,505

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、新株予約権付社債等の潜在株式がなく、また、前第3四半期連結累計期間は、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第46期(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)中間配当については、平成25年10月29日開催の取締役会において、平成25年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議し、配当を行っております。

中間配当金の総額	67百万円
1株当たりの金額	6円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成25年12月6日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月12日

株式会社さくらケーシーエス

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 田 中 基 博 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 三 井 孝 晃 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社さくらケーシーエスの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社さくらケーシーエス及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。